

平成25年度 学校経営計画に対する中間評価報告

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
<p>「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。</p> <p>・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。</p>	<p>① 校内研究授業や自教科・他教科の授業見学などを通して、また生徒による授業評価なども参考にしながら、授業の質的な向上を図り、授業改善に取り組む。</p>	教務課	<p>【満足度指標】</p> <p>生徒の授業に対する満足度が高まった。</p>	<p>「授業が充実しているか」の質問に対して、以下の①から④と答えた生徒の割合を算出し、順に4,3,2,1を乗じて、その値<math>\alpha</math>を算出する。</p> <p>①「よくあてはまる」 ②「ややあてはまる」 ③「あまりあてはまらない」 ④「まったくあてはまらない」</p> <p><math>\alpha</math>の値が</p> <p>A 3.4以上 B 3.35以上 C 3.3以上 D 3.3未満</p>	<p>[判定] B</p> <p>7月実施の授業評価では 3.37</p>	<p>・校内研究授業を年間7教科で計画、実施しており、教科の研究テーマに基づいた研究授業後に協議会も開催している。</p> <p>・今年度は、教員同士の授業参観回数が2.3回とやや少ない。自己研鑽のためにも改善を図りたい。</p> <p>・満足度指標は昨年度の3.34よりもわずかながら、上がって3.37であった。熱意とわかりやすい授業を心がけるとともに、達成感のある授業展開に努めたい。</p>
	<p>② 基礎力の充実を大前提とした上で、難関大入試分析や東大・京大・医学部説明会等の充実を図る。</p> <p>3年生には、きめ細やかな指導ができるよう、模擬試験のデータ処理・分析等を工夫する。また、受験集団としての意識を高める工夫をしていく。</p> <p>2年生には、基礎力の充実に加えて、標準を超えるレベルの問題に対する対応力も育てる。</p>	進路指導課	<p>【成果指標】</p> <p>受験集団としての意識が高まり、東大・京大・国公立大学医学科の合格者が増加した。</p>	<p>東大・京大・国公立大学医学科合格者の合計人数（重複可）が、</p> <p>A 40人以上 B 30人以上 C 20人以上 D 20人未満</p>	[判定] 未定	<p>取組</p> <p>① 3年学年団と連携して、記述力(国公立大2次力)を伸ばすために、 i 平日補習を概ね大学別で実施 ii 最終登校日後の特別補習を予定</p> <p>② 6月に東大・京大・医学部の入試説明会と情報連絡会を実施、10月に他の難関大学を含めた情報連絡会を実施</p> <p>課題と改善策</p> <p>① 3年生の東大京大を中心とした添削指導・平日補習は、方法・効果の検証が必要である。</p> <p>② 1・2年は基礎力充実と教科バランスを重視した指導を継続していかなければならない。</p> <p>③ 理系の大学を目指して、理系のコースを選んでいるにもかかわらず、理系科目を不得意としている生徒の割合が高まってきているので、早急の対策が必要である。</p>
	<p>③ ホーム担任及び学年主任は、年間5回以上の個別面接指導を行い、生活面をはじめ、授業や家庭学習、校外模試に臨む姿勢など学習面について、個に応じた指導を行う。</p>	1学年 2学年	<p>【満足度指標】</p> <p>個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上した。</p>	<p>「学年団の指導が、自分の学習姿勢や学力の向上に役立った」という生徒の割合が、</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	[判定] 未定	<p>・各学年とも少なくとも3回以上の個人面談を行い、学習・進路等についての相談を受け、個別指導を行った。</p> <p>・アンケートは、年末に実施する予定</p>
	<p>④ 授業内容をより充実させるとともに、朝学習や放課後補習・個人添削等を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を時機を逸することなく実施する。</p>	3学年	<p>【成果指標】</p> <p>個に応じた指導により、第一志望の大学への進学が実現した。</p>	<p>難関10大学及び国公立大学医学科の合格者が、</p> <p>A 100人以上 B 90人以上 C 80人以上 D 80人未満</p>	[判定] 未定	<p>・3月末の受験結果により判定する。</p> <p>・6月下旬から生徒の志望に応じた補習を実施している。また、難関大学を志望する生徒への添削指導も各教科で取り組んでいる。</p>

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
<p>2 「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりを目指し、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。</p> <p>・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。</p>	<p>① 各種の講演会を生徒の発達段階に応じて適正に開催し、品位を高め心豊かで、将来リーダーとなる資質を育成する。</p>	総務課	<p>【満足度指標】</p> <p>講演会を積極的に評価している生徒の割合が大きい。</p>	<p>生徒によるアンケートで「講演会が知識や経験を学び、生き方を考える良い機会となっている」の項目で、（よくあてはまる）+（ややあてはまる）の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	[判定] 未定	<p>・12月にアンケート実施予定。</p>
	<p>② 挨拶をきちんと行うことにより、相手を尊重する態度の育成を図る。教育活動のあらゆる機会を通して、しっかりとした挨拶の実行を促す</p>	生徒指導課	<p>【成果指標】</p> <p>しっかりと挨拶が出来る生徒が多くなった。</p>	<p>挨拶・会釈に関して「自分はしっかりと挨拶をしている」と答えた生徒の割合が、</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	[判定] 未定	<p>・12月にアンケート実施予定。</p> <p>・登校指導を継続して実施していることもあって、少しずつではあるが挨拶する生徒が増加している印象である。今後も登校指導を継続するとともに、電子掲示板等で挨拶の啓発を促していきたい。</p>
	<p>③ 部活動等の活性化及び競技力の向上を図る。</p>	生徒指導課	<p>【成果指標】</p> <p>生徒主体の活発な部活動により、上位大会に出場する部が増えた。</p>	<p>県予選を突破し、ブロック大会以上の大会・行事等に出場した部が</p> <p>A 12以上である。 B 10以上である。 C 8以上である。 D 8未満である。</p>	[判定] B 前期は10の部活動が出場	<p>運動部の加入率は昨年並みであり、下校時刻までの時間を有効に活用した活発な部活動が維持できている。ただ、競技力向上には顧問の指導も不可欠なので、指導時間の確保が課題である。</p>
	<p>④ ISO活動を通して環境保全を意識した生活となるようにするため、美化委員会の活動を通して生徒のISO活動への理解を深める。</p>	保健環境課	<p>【満足度指標】</p> <p>環境保全を意識して生活し実践している。</p>	<p>校内の環境保全活動に努めていると答えた生徒の割合</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	[判定] 未定	<p>・12月にアンケート実施予定。</p> <p>・今後、少しでも高まる様に工夫・広報・実践をしていきたい。</p>
	<p>⑤ 魅力ある充実した図書館をめざし、図書コーナーの拡充など読書・学習環境整備に努めるとともに、広報活動を積極的に実施する。</p>	図書課	<p>【成果指標】</p> <p>図書館の利便性が高まり、図書の貸出し数が増えている。</p>	<p>1年間（1月末現在）の本の貸出し数が、</p> <p>A 4,500冊以上 B 4,000冊以上 C 3,500冊以上 D 3,500冊未満</p>	[判定] A 9月30日現在で2,702冊と目標の2,700冊（Aの月換算）をわずかに超えている。	<p>4月より順調に貸出し数を伸ばし、7月には812冊（昨年同月312冊）の最高月間貸出数を記録した。これからも工夫を凝らし、秋の読書週間（10月29日～11月9日）、後期読書会（11月15日）、おはなし会などの行事を核にしたさまざまな取組（新刊図書の購入、図書館だよりの発行、しおりの配布など）を実施したい。</p>
	<p>⑥ 悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間の連携を密にしながら、すべての生徒が希望を持って学校生活を送れるように支援する。</p>	教育相談室	<p>【満足度指標】</p> <p>気軽に相談室を利用することで、精神の安定が保たれるようになる。</p>	<p>相談室を利用した生徒による学校評価アンケートの「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、（よくあてはまる）+（ややあてはまる）の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	[判定] 未定	<p>・支援を必要とする生徒の早期発見のために、1年生に対して5月にアンケート、6月にQ-U検査を実施、5月と9月に教員対象の「気になる生徒調査」を実施。その情報を共有し支援を行っている。解決には時間がかかり、具体的な成果が見える場合もあるが、長期化するケースも多い。</p> <p>・発達障害アドバイザー巡回事業を活用して、生徒や保護者へ具体的な支援策を助言してもらっている。</p> <p>・相談室利用が増え、長期化するケースも出ている。同時に複数の対応をしなければならぬ場合もあり、担任や学年、保健室等との連携が一層必要となっている。</p>

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および後期の扱い（改善策）
3 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。  ・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携したボランティア活動の推進。	① 保護者懇談会、PTA 活動、いしかわ教育ウィークなどを通して積極的に学校を公開し、保護者や地域住民との連携を強くし、開かれた学校づくりをめざす。今年度は創立 120 周年記念式典も実施される節目の年でもあり、機会をとらえて積極的に本校の教育活動を広めていきたい。	総務課	<b>【成果指標】</b> 本校の教育に対する保護者等の関心が高まり、学校公開への参加者が増えた。	「PTA総会」、「いしかわ教育ウィーク」、「生き方講演会」の保護者・地域住民の来校者数の合計が、 A 1,200人以上 B 1,000人以上 C 800人以上 D 800人未満	[判定] 未定	・HP は 4 回、毎月 1 回行事予定を配信メールをしている。後期の行事を HP で発信していきたい。 ・PTA 総会は 756 名（家族含むと 825）、生き方講演会は 130 名が出席。昨年より参加者はともに減少している。教育ウィークに向け PR に力を入れた。
	② 理科科 1・2 年生が「創立記念祭における理科教室」、「中学生サイエンスフェア」及び「高校生による青少年のための科学の祭典」等において、小・中学生を対象にした理科教室を開講し、科学教育の面から地域に貢献する。	S S H 推進室	<b>【満足度指標】</b> 「理科教室」の運営を通して、生徒の地域貢献に対する意識が高まる。	「理科教室に参加してみて、どう思いますか」という質問に対して「大変良かった」または「良かった」と回答する理科教室の参加者の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] A 土曜日開催で、参加者はのべ約 1000 人を超え、うち約 350 名から回答が得られた。「大変良かった」または「良かった」と回答した参加者の割合は 98.0 %であった。(62.4% + 35.6%)	1 年生理数科生徒による「理科教室」は、事後のアンケートの結果、参加者にとっても本校の生徒にとっても満足度の高い取組となっていた。特に、小学生以下の参加者の満足度は 100 %であった。 是非、今後も続けていけばよい取組であると考えているが、アンケートの回収率を上げていきたい。
	③ ホームページの更新を定期的に、各種行事・部活動・S S Hの様子や教育課程・進路などの情報を、よりわかりやすく発信する。	情報管理室	<b>【満足度指標】</b> 「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という保護者が増加した。	「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という項目の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] 未定	・12 月にアンケート実施予定。 ・ホームページの更新回数は前年度並みに行うことができている。 ・後期は、ホームページの一層の積極的活用を図るため、Web ページの方式の NetCommons 方式への変更を検討し、その導入に向けて準備を進めたい。この変更により、関連部署による情報発信がよりタイムリーで、きめ細やかなものとなる。
	④ 「学年だより」、「進路だより」等を通じて、生徒の学校での様子を伝えるとともに、保護者の学校行事への参加拡大につなげていく。	1 学年 2 学年 3 学年	<b>【満足度指標】</b> 学校からのたより・通信等は学校の様子についてわかりやすく伝える割合が高い。	学校からのたより・通信等は学校の様子についてわかりやすく伝えているとする保護者の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] 未定	・12 月にアンケート実施予定。